

谷津田の豊かな自然環境 湧き水編

千葉市緑区 松下 恵美子

田んぼの水はどこからくるの？

時々、学校田んぼに参加する子どもたちから質問されます。平野での田んぼの多くは、川などから水を汲み上げ田に水をひき入れたり、田植え後に苗の根張りをよくするために入水を止めたり、稲刈り前には大型の機械が田んぼに入るために水をきったりと田への入水をポンプなどで調整します。しかし、谷津田、特に学校田んぼでお借りしている田んぼには水をひき入れるポンプはありません。田植えの前後はもちろん稲刈りの時も冬の間も谷津田には水が張られています。

谷津田の水はどこからくるの？

谷津田の水は田んぼの周りのあちらこちらから湧いてでてきています。田んぼのそばにある山からもしみ出てきているのです。谷津田は名前の通り、谷間にある田んぼです。千葉には小さな山がたくさんあり、その谷間となっている所からたくさんの水がしみ出てきているのです。昔の人がこの山と山の間のぬかるんだ土地を耕し、田んぼとして利用したのです。地元の方のお話では、底なし沼のように深い場所もあり、昔は小さな舟に乗って田植えをしたということです。水温は一年中ほぼ変わらぬ、16℃前後です。夏は冷たく、田んぼの作業でほてった手足を冷やしてくれます。冬は暖かく、田んぼの水の表面が凍っても、水が湧き出ている所だけは凍らず水が流れているのです。山に降った雨が山の中でろ過されるのでとてもキレイな水です。水質検査の結果、良質な水というお墨付きももらっています。

谷津田にしみ出てきている水は何年前に降った雨水？

田んぼに来る子どもたちに出す質問です。半分くらいの子は、昨日の雨！とか、一週間前の雨！と答えます。中には、100年前!!なんて答える子どももいますが…。答えは、山の大きさにもよりますが、10～20年前といった10年単位以前に降った雨だと言われています。10～20年じっくりと山のさまざまな地層を通過してくるのです。学校田んぼで作業する5年生が10歳ですので、ちょうど、この子どもたちが生まれた年くらいに降った雨が谷津にしみ出てくるのです。

谷津田の山は、木材を利用するために杉などを人工的に植えたりもしていますが、さまざまな種類の木が生えている雑木林の山もたくさんあります。そういった木々の根っこが絡まった山の中を雨水は通ってくるのです。ただ、木が伐採された山は保水力を失って、崖崩れを起こしたり、水が枯れてしまったりします。

谷津田の水のおかげで生きている生き物はどれだけいるかな？

私は、田んぼの水が湧いて出てくる場所を探すことが大好きです。田起こしなどをするときを探します。去年見つけた所は、腕が入るくらいの穴からコンコンと水が湧いて出てきていました。手を入れるとひじくまで入る深い”水の道”でした。そして、そんな”水の道”の入口には小さなヨコエビがウヨウヨとしていて、そのヨコエビねらいか、穴をねぐらとしてののか、ホトケドジョウが水の流れに逆行して穴に入っていました。しかし、不思議なことに年によってその水の湧き出る場所が変わるのです。去年あったその穴は今年はありませんでしたが、すこし左右にずれた所から水が湧いていました。水が湧いてくる所からは水だけでなく山の土や砂もでてきているのですが、金色のキラキラとした砂もあり、とてもキレイです。

田んぼの中だけではなく、山の際からも水がしみ出てきます。そのような所には、ヨコエビやホトケドジョウだけでなく、

サワガニやホタルの幼虫の好物のカワニナがいたりします。山からしみ出してきた土水路にはオニヤンマが卵を産みにやってきます。水路の土をすくうとオニヤンマの1年目くらいのヤゴからもう脱皮するような5～6年目のヤゴまで大小さまざまあります。学校田んぼでの自然観察では、このヤゴ探しが一番人気です。

地元の方のお話によると、昔は土水路にウナギやフナがいたり、シジミがとれたりしたそうです。今では想像できないほどたくさんの種類の生き物が田んぼや水路にいたようです。

それでも、谷津田にたくさんいるあの絶滅危惧種の二ホンアカガエルは、冬場に産卵するため、冬でも水が



谷津田に水をもらす山々

張ってある谷津田の田んぼでしか生育できません。圃場整備された田んぼには産卵できないからです。越冬するメダカやタニシやさまざまな種類のヤゴも冬に水の張ってある田んぼでしか生きられません。植物でも、キレイな水でしか育たないセリやクレソン、貴重種となっているイチョウウキゴケ、サンショウモ、トチカガミなどが谷津田では見られます。このように山からのキレイな湧き水はお米の生育だけではなく、生き物たちにとってもなくてはならないものなのです。

谷津田のような田んぼがどうして減っているの？

手作業でお米作りをしていたころは、どんなに深い場所でも舟などを利用して田植えや稲刈りをしていました。しかし、機械化が進むと谷津田でも大型の田植え機や稲刈り機がはいるように多くの田んぼで土壌を改良し、灌漑設備を整えポンプなどを設置していきました。山からの浸み出た水をコンクリートの暗渠に流し、そこから田に水をひき入れられるようにしてあります。このように機械化が進む一方で、あまりに深い田んぼや湧水の水量の多い田んぼは機械が入られないため、今でも手作業による田植えが行われているのです。このような地元の方々のご苦労があってこそ、この豊かな自然環境が守られてきたのです。しかし手間もかかるため、少しずつ放置された田んぼは休耕田となり、次第にヨシ原となってしまっているのです。ただ、ヨシ原となっている場所でもキレイな湧き水を求めメダカが、土水路にはホトケドジョウやカワナやタニシやホタルやさまざまなヤゴが生息し、ひっそりと命をつないでいました。

休耕田を耕すと、小さなゲンゴロウ、コオイムシ、タイコウチ、アメンボウなどがどこからともなくやってきて、それらを狙うたくさんのクモも現れます。そのうち、たくさんの種類のトンボたちも産卵にやってきます。稲のまわりをメダカやホトケドジョウが泳ぎ、カエルも集まり、そのカエルを追ってヘビも姿を現し、ヘビを狙うサシバやノスリも上空で偵察を始める…そんな自然のサイクルが豊かな湧水によって支えられているのです。湧水や田んぼの生き物に癒され、楽しく農作業ができるこのすばらしい自然環境をみなさんと共有していければと思います。

*小山町の谷津田は、平成18年度から千葉市の谷津田等の保全区域に指定されていましたが、この度、YPPの集合場所でもあるリンドウ広場に看板が設置されました(右)。この看板を目印にいらしてください。



かかしたち 2015



*上 10人：下大和田
下 3人：小山



里山たんけんレポート

第187回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2015年8月2日(日) 晴れ

夏の山林に暮らす夏の虫を観察しました。まずは樹液に集まる虫たち、多くは夜行性ですが日中も樹液に来ているものもいます。発酵臭のする樹液にはコクワガタ、カナブン、カブトムシが来ていました。スズメバチの仲間もやって来ました。猛暑のためか夜行性のカブトムシやカナブンなどは少なめでしが枯葉に埋まって過ごしている姿を見ました。枯れて切り倒したイヌシデの大木にタマムシが3頭産卵に来ていました。枯れ木も彼らの暮らしにはなくてはならないものということが良く判りました。

この時期林内で過ごすトンボの調査もしました。同定の方法、雌雄の見分け、羽へのマークの仕方、記録のとり方をなどの解説のあと実施しました。6種、59頭を記録しました。いつもはイネの株元で見ることの多いイトトンボの仲間のホソミイトトンボも林内にいました。水辺で暮らすトンボも周辺の山で暮らす時期があること、水辺だけでなく、周辺の山林が一体となった環境が生きものにとって必要なことが良く判りました。

(参加者 大人 11名、高・大学生8名、小学生4名、幼児2名; 報告: 網代春男)

第179回 下大和田 YPP「かかしづくり」(兼、第7回米づくり講座) 2015年8月16日(日) くもり

夏休みの YPP 恒例のイベントのかかしづくりを始める前に、今年のコシヒカリの実り具合を調べる“モミ数カウント”をしました。田んぼに入って1株に付いている穂の数とそのうち1本の穂のモミの数を数え、穂もモミもたくさん付いていることがわかり、豊作の予感!



かかしづくりは竹の切り出しからスタート。子どもたちも林に入り、のこぎりで竹切りに挑戦しました。今年は大勢の皆さんが参加してくれたので、かかしづくりはなんと10グループ、これまで最多です。それぞれ思い思いのコスチューム、顔の表情で、眺めていると思わず顔が緩くなってしまいます。完成するとグループごとに記念撮影をしてから田んぼに立てました。鳥よけのキラキラテープも張って田んぼはとてにぎやかになりました。

これで稲刈りまで安心ですね。

(参加者: 大人30名、大学生4名、小中学生13名、幼児8名、報告: 高山邦明、写真: 田中正彦)

小山町 YPP 番外編「学校田んぼ カカシ作り」

2015年8月21日(金) 晴れ

8月の小山町 YPP はおやすみでしたが、学校田んぼのボランティアのご父兄との作業は行ないました。毎年、8月の作業は「カカシ作り」。例年は、夏休みということもあり、子どもだけの参加があるのですが、今年はアシナガ蜂が多く YPP スタッフ数名が刺されてしまったため、子どもだけの参加は避けていただくようにしました。そのため、今年のご父兄と一緒に来られる子どもの参加に限られ、あすみ小の5年生1名と大椎小の6年生1名と幼稚園児2名に頑張ってもらいました。古着を袋から出すと、このシャツとズボン? スカートの方がいいかな? などなど…まずは洋服のコーディネートをしていきました。骨組みとなる竹をちょうどいい大きさに切ったり、麻ひもで組んだりといった作業もお母さんと一緒にしてもらいました。初めてのカカシ作りでどのくらいワラをつめたらいいのか、どんな顔の表情にしたらいいのかいろいろ試行錯誤しながらも、かわいらしいカカシ3体を作りました。穂もすこしづつ垂れ始めた田んぼ。稲刈りまでの1か月半、カカシさん、田んぼの見守りよろしくお願いたします。



(参加者 大人9名、小学生2名、幼児2名 報告、写真: 松下恵美子)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 8月 2日 ミンミンゼミ、クマゼミ、ツクツクボウシが鳴き、谷津のセミが勢揃い（高山）。
8月 5日 サシバが2羽、谷津の空き地に降りていた。すぐ間近だったが逃げない（松下）。
8月 15日 田んぼにタカサプロウが咲く（高山）。
8月 22日 アキノキリンソウが咲き始める（高山）。
8月 29日 涼しくて朝の谷津にセミの声がしない（高山）。

下大和田

- 8月 3日 モズが高鳴きをしていた（網代）。
8月 16日 林の中で赤く色づいたマイコアカネを見かける。田んぼにナガコガネグモの卵塊（高山）。
8月 28日 田んぼのコシヒカリが雨と風とで多数倒伏していた。緑米と赤米は出穂し始めた。新しく導入した黒米はまだ穂が出ていない（網代）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第180・181回下大和田YPP「コシヒカリの稲刈り・脱穀」(兼、第8・9回米づくり講座)

いよいよ今年の収穫です。最初にコシヒカリを刈ります。カマを使っての手刈りですが、小さなお子さんでもできますので、皆さんでぜひいらして下さい。引き続き脱穀は稲の乾燥具合や天候で日程が変更になるかもしれませんので、ホームページやちば環境情報センター事務局で事前に確認をお願いします。

日時： 稲刈り 2015年9月12日（土）9時45分～15時 *小雨決行
脱穀 2015年9月26日（土）9時45分～14時

*脱穀は稲の乾燥具合や天気によって日程が変わる可能性がありますので、当日や前日の天気が悪い場合はホームページで確認をお願いします（前日にはお知らせします）。

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費： ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

▼第189回下大和田10月の谷津田観察会とごみ拾い

あかとんぼの季節です。トンボの調査と秋の花、木の実を観察しながら谷津を巡ります。

日時： 2015年10月4日（日）9時45分～12時 ☆小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（同上）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（下大和田YPPに同じ）

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時：2015年9月13日（日）、9月18日（金）いずれも9時45分～15時

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上） 持ち物：飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催：ちば環境情報センター

▼第123回小山町YPP「コシヒカリの稲刈り」

収穫の最初はコシヒカリの稲刈りです。カマを使って手刈りします。

日時： 2015年9月23日（水・祝）10:00～12:30、小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば環境情報センター。

編集後記 記録的な猛暑が続いて体がほとんど疲れましたが、8月最後の週になって急に涼しくなりました。ホッとひと息というところですが、9月とか10月並の気温で肌寒いほどの日が続くと、田んぼの稲が気になってきます。去年は残暑がほとんどなく秋になってしまい、古代米がうまく実りませんでした。体にはつらいのですが、暑さよ、カミング・バック～！（高山邦明）